10月1日は磁石の日

磁石で未来の可能性を!

10月1日は磁石の日ー。プラス（N極）とマイナス（S極）を漢数字に見立てると「十」と「一」。これにちなんで2008年に認定され、今年で2年目を迎える。古代ギリシャでは、すでにその特性が認知されていたとされるだけに、磁石の歴史は古く、産業用や家電、日用品にいたる幅広い製品分野の技術革新を担い、利便性向上の原動力となってきた。そしていまー。

地球環境問題に対する関心の高まりから、長期にわたり、その特性を保持できる永久磁石の役割も再認識されつつある。市場創出に果敢に挑む業界のリーディングカンパニーであるニチレイマグネット（大阪市城東区）、姫路電子（兵庫県姫路市）、マグナ（東京都渋谷区）の経営トップに、その魅力や「磁石文化の創造」にかける思いについて語って頂いた。

株式会社マグナ　代表取締役　澤渡　要

記念日に込められた思い

千野「N極とS極にちなんで『磁石の日』とするのはユニークなアイデアですね。記念日制定に至る経緯からお聞かせ下さい」

前橋「当社は文具や日用品など、一般消費者にとって比較的身近な分野で用いられている『マグネシート』という製品を製造していることもあり、10年ほど前から、ショールームやその他のスペースに『十月一日は磁石の日』と表示し、PRしてきました。顧客企業からの評価も高く、こうした試みをもっと発展できないかと検討を重ねてきました。子供から大人まで楽しめ、暮らしに役立つ磁石文化の推進や普及を目指し、記念日制定を申請、認定されました。事務局は当社の東京支店（江東区）内に設置しています。磁石関連業界だけでなく、教育や文化、芸術などさまざまな場面を通じ、認知向上を目指したいと考えています」

澤渡「ニチレイマグネットさんの、こうしたお考えに賛同し、業界としても手を携え、ともに活動を盛り上げていく方針です。業界活動としては、磁石関連産業の健全な発展を目指し、永久磁石に携わる専門会社7社で06年に『日本磁友会』を設立しています。私自身、会長として会員企業間の交流や人材育成に取り組んできましたが、業界内の活動にとどまらず、産業発展を支えてきた磁石の魅力や社会的価値をもっと積極的に情報発信するべきではないか。こうした思いが根底にあります」

網嶋「当社の製造する磁石は各種センサーや健康関連機器、携帯電話など幅広い分野に用いられており、さまざまな顧客ニーズに即応できる生産体制を構築してきました。長年、磁石に携わる者として、産業を支える磁石の役割をもっと知ってほしいとの思いは皆さんと同じです」

千野「理工系離れが指摘されて久しいなか、モノづくり大国、日本としては次世代を担う人材育成は重要課題です。モノづくりの魅力を再認識してもらううえでも、自動車から家電製品、近年では医療分野まで多岐にわたり採用されている磁石の役割を知ってもらうことは意義深い活動だと思います。磁石の魅力を再発見してもらうため、皆さんは、各社それぞれでも多彩な活動に取り組まれているとお聞きします」

澤渡「私は数年前から出前授業を通じ、小学生に磁石の役割や魅力を伝えているのですが実物を目にすると皆、目を輝かせるんですね。また、こうした交流から、思いがけない発想や製品開発につながるアイデアをもらうこともあります」

網嶋「実は、この7月に近隣企業（衣川製鎖工業）が工場の一角に『鉄のふしぎ博物館』（兵庫県姫路市）を開設しました。同博物館には、当社製品も展示してもらい、子供たちに磁石が磁石を身近に感じる『入り口』としての活用を目指しています」

前橋「磁石の時代が到来した。私はこう思っています。30年以上前から、磁石を活用できる『場所づくり』に取り組んできましたが、今大きな期待が寄せられているのが、住宅・施設等の建装分野です。磁粉を混合することで、磁石が貼れる壁紙も市場投入しています。住宅、店舗、事務所等で需要が増えているこの分野での複数の特許取得済み製品・システムを活かし、室内の壁面を様々なマグネット製品・教材などが使えるメッセージボードにすることができます。また、携帯電話やパソコンとは異なる、今だからこそ必要な、『あたたかみ』のある、親子のスキンシップや家族のコミュニケーションの場を提供することで、より幸福な社会になればと願っております」

リーディングカンパニーが「結束」

千野「まさに『磁場』が広がっているということですね。『マグネットワールド』の理念を高く掲げて、次世代を担う磁石ファンを育て業界の発展も目指す取り組みは有意義だと思います。ところで皆さんはいずれも業界をリードする老舗企業と伺っていますが、事業内容についてお聞かせ下さい」

網嶋「1964年の創業以来、フェライトマグネットをはじめとする、磁気材料および磁気製品の製造販売を手がけています。フェライトマグネットメーカーは、国内で12社ほどありますが、国内生産の8割は中国に移管していますが、特殊用途や短納期対応が必要な製品については国内で生産しています」

澤渡「当社はネオジウムからサマリウムコバルト、フェライトなど常時、1500種類以上の磁石を扱っており、国内に取り組んだ私自身の経験が生かされています。受注生産が当たり前ならば24時間以内の納品が可能なのが最大の強みです。背景には70年代に米国で市場開拓だった時代に、多品種少量生産へのニーズを見越し、製品精度の高さと豊富な品ぞろえ、迅速な供給体制を実現したことが今日の企業成長につながっています」

姫路電子株式会社　代表取締役　網嶋　重昭

前橋「マグナ様と姫路電子様が『硬い』磁石を扱っているのに対し、当社は磁性材料をゴムやプラスチックに混合したシート状の『マグネシート』などの製品で市場を創出してきました。『黒く硬い』という磁石の従来概念を一変させるフレキシブルで身近な製品づくりを開発理念としており、今や5000社以上の顧客企業を抱えます。身近なところでは、自動車の初心者マークや冷蔵庫に貼るステッカーや文具製品などを思い浮かべて頂ければ分かりやすいかと思います」

ニチレイマグネット株式会社　代表取締役　前橋　清

環境配慮も積極推進

千野「いま世界は、これまでの大量生産やエネルギー多消費型の産業構造から脱却し、環境配慮と経済成長の両立を目指す持続可能な社会へ転換しようとしています。こうした未来社会において、磁石が果たしうる役割を皆さんはどうお考えですか」

澤渡「さまざまな市場にアンテナを張りめぐらせ、用途開発に力を注ぐことが大切だと考えている。私は当社を、磁石にまつわる顧客企業のあらゆる課題解決を支援する『マグネットの相談所』だと思っています。企業や技術者との交流を通じ、アイデアを具現化したいですね」

前橋「磁力がある限り再利用可能という意味でマグネットシートは、ほど、環境配慮型の製品はないと思います。『磁石は生きもの、活かすもの』だから、お客さまに再利用して頂けるよう、その手法や用途などを提唱し、全製品の環境配慮を進めており、また生産工程で排出される端材の再利用にも取り組んでいます。資源の有効活用はいまや企業の責務。リサイクルやリユースに一層積極的に取り組む所存です」

千野「おっしゃる通りですね。姫路電子さんはいかがですか」

網嶋「ネオジウムは希少金属なので、リサイクルは進展しつつあります。リサイクルを進めると同時に、今後は再生マグネットを活用した製品の用途開発も課題でしょう」

千野「本日は貴重なお話を頂きまして、ありがとうございました」

日刊工業新聞社　社長　千野　俊猛

【業界メモ】

日本能率協会総合研究所によると、文具や家庭用品といった一般用磁石の市場規模は06年度で約40億円。ネオジウム磁石や弾力性のあるラバー磁石などの製品開発や雑貨、磁気治療器といった用途開発に伴い市場は拡大傾向にあるという。

磁石業界座談会